

※ 2 月 27 日（木）卒業式予行において同窓会長祝辞で紹介の詩

名づけられた葉

新川和江

ポプラの木には ポプラの葉

何千何万芽をふいて

緑の小さな手をひろげ

いっしんにひらひらさせても

ひとつひとつのてのひらに

載せられる名はみな同じ ポプラの葉

わたしも

いちまいの葉にすぎないけれど

あつい血の樹液をもつ

にんげんの歴史の幹から分かれた小枝に

不安げにしがみついた

おさない葉っぱにすぎないけれど

わたしは呼ばれる

わたしだけの名で 朝に夕に

だからわたし 考えなければならない

誰のまねでもない

葉脈の走らせ方を 刻み（きざみ）のいれ方を

せいっぱい緑をかがやかせて

うつくしく散る法を

名づけられた葉なのだから 考えなければならない

どんなに風がつよくとも